

滋賀県長浜市 & 早稲田大学 地域連携ワークショップ° 2023

地域連携ワークショップとは

まちづくり、地域ブランド、移住定住、観光……自治体が抱える課題の解決策を、学生チームが提案する実践型のワークショップです。学部・学年を超えて集まった学生同士が議論しながら仮説を立て、自治体関係者や住民の方々へのヒアリングなどを通して提案につなげます。地域の魅力を知り、課題を深く考え、仲間と協働することは成長の機会になります。

おススメのポイント！

- 過疎化や少子高齢化が進んでいる地域の実情や課題を学ぶことができます
- 行政視点だけではなく、企業視点から地域を見つめ新しい価値を共に創り上げていく挑戦ができます
- 田根地区では、他大学とも連携して取り組んでおり、大学を超えた交流ができます

テーマ

田根地区とともに創る「共創企業」を発掘せよ

田根地区は長浜市内の中山間地域にあり、美しい田園風景がひろがるのどかな場所ですが、過疎化や少子高齢化が急速に進行しています。地域の衰退が進む中で、持続的な地域をつくるには地域と多様に関わる「関係人口」の創出・拡大はもちろん、企業にも関わりを持ってもらい、地域の価値をより高めていく必要があると考えています。

そこで、今回のワークショップでは、地域住民や自治体、企業調査やヒアリング等を通じて田根地区の現状や特性を捉え、どのような企業が田根地区に興味を持つのか、どのような関わり方があるのか、みなさんならではの視点で提案していただきます。

また、同地区はこれまでマサチューセッツ工科大学（MIT）や東京大学、慶応義塾大学など国内外の大学と連携を進めており、同様のテーマで他大生も活動していることから、大学を超えた連携・交流を通じた相乗効果を期待しています。

長浜市の魅力

滋賀県の北東部に位置している長浜市は、古くから近畿・東海・北陸を結ぶ交通の要衝として発展してきました。琵琶湖や伊吹山系の山々などの豊かな自然に恵まれ、湖岸には水鳥が集い、四季折々の色鮮やかな情景を楽しむことができます。

また、戦国時代を偲ばせる賤ヶ岳・姉川の古戦場、長浜曳山祭りや観音文化など、数多くの多彩な歴史的・文化的資源を有しており、長浜市は「自然・歴史・文化の宝庫」とも呼べる魅力溢れるまちです。



募集要項

募集期間	2023年6月2日（金）～6月18日（日）23：59 [期間厳守]
募集対象	早稲田大学に所属する正規学部生・大学院生（修士課程）（学部、専攻、学年問わず）
応募条件	原則として事前説明会（オンライン）への出席 および 全ての公式日程（次頁）への参加が可能なこと
募集人数	2チーム（10名）
応募方法	事前説明会（オンライン）について【要申し込み】 日時：6/7(水)、6/12(月)、6/15(木) 12:30～12:55（全日程） ※申し込み方法などの詳細は、Waseda メールもしくは Web ページ上でのご案内に記載しています。 ※すべての回で内容は同じです。上記日程のうち、いずれかの回にご参加ください。 ※事前相談会（12:55～13:10）も上記日程で実施します（参加は任意です）。 （説明会出席後）以下の手順もしくは右の QR コードのリンク先から申請してください。 ① MyWASEDA の「お知らせ一覧」から「地域連携ワークショップ 2023 夏編」を検索 ② 「地域連携ワークショップ 2023 夏編応募フォーム」から「申請」をクリック ③ 必要事項（志望理由、ワークショップ期間中のスケジュールなど）を入力して申請 
選考方法	書類選考：結果通知は 6月28日（水）までにWasedaメールにて通知します。 ※面接選考（オンライン）を実施することがあります。その際は対象者に別途ご案内します。
注意事項	① 当ワークショップは一般授業とは扱いが異なります。成績評価・単位認定等はありません。 ② フィールドワーク（現地調査）の実施を含む対面・オンラインのハイブリッド形式で実施します。活動地は早稲田キャンパス、長浜市田根地区となります。 ③ 【重要】公式日程以外にも、自主的にミーティングやグループワークを実施する機会が多く、期間中は当ワークショップの活動が中心となるよう、スケジュール管理はくれぐれも注意してください。 ④ オンライン実施の場合、「公共の場所では参加しない」「ヘッドセットなどを装着する」など、第三者に実習内容を知られることがないよう措置を講じてください。 ⑤ 参加にかかる費用（現地までの交通費、宿泊費、フィールドワーク期間中の食費、オンラインでの活動に必要な端末の購入費、通信費など）は参加者による実費負担です。宿泊は市内ビジネスホテル（自治体手配）。なお、自治体からの補助に加え、大学からの補助（地域連携ワークショップ活動助成金）により実際の個人負担は食費等を除き 10,000 円程度になる予定です（金額等詳細はワークショップ開始時にご案内します）。 ※交通費目安（片道・ご参考） 新幹線、在来線 13,460 円 ⑥ 【重要】当ワークショップに応募する場合、同時期に実施されるプロフェッショナルズ・ワークショップへの応募はできません。事前に各ワークショップの特色などをご確認の上、応募してください。 ⑦ 当ワークショップは複数の地域（第 2 希望まで）に応募することができますが、最終的に参加できるのは 1 地域のみです。当地域を第 1 希望として申請し、選考を通過した場合はその時点で第 2 希望の地域のワークショップには参加できなくなります。 ⑧ 早稲田大学の学生補償制度に加入いただきます。 ⑨ ワークショップ実施日と重複する集中科目等を欠席した場合、公欠扱いとはなりません。 ⑩ ワークショップでは自治体、大学がインスタグラム等公式 SNS を含む広報活動の目的で写真・映像を撮影します。写真・動画掲載の際には個人特定されないよう十分注意いたしますが、予めご了承ください。 ⑪ 選考結果に関する問い合わせにはお答えいたしかねます。あらかじめご了承ください。 ※新型コロナウイルス等の状況によって、プログラム内容等に変更が生じる場合があります
問合せ先	教務部教育連携課 (rbso@list.waseda.jp) ※問い合わせの際には、件名のほか所属学部／研究科、学年、氏名を必ずメール本文に含めてください。

ワークショップスケジュール（公式日程）

	予 定	日 程	内 容
①	オリエンテーション @早稲田	7月11日（火） 17:00～19:00	・参加者顔合わせ ・自治体担当者（@オンライン）からの説明 ・課題の課題およびテーマ設定の背景説明 ・今後のスケジュール確認、事前調査の進め方など説明
②	交流会 @早稲田	7月14日（金） 17:00～19:00	・ミニゲームなどを通して参加学生同士の親睦を深める ・フィールドワーク前の注意事項確認
③	事前調査期間	オリエンテーション ～7月31日（月）	・各自で地域やテーマについて調査／情報収集を行い、チームとしてテーマに対する仮説を立てる ・ヒアリングに関する事項（ヒアリング希望先、質問内容など）を検討し、自治体へ提出 ・必要に応じ、大学キャンパスにてグループワーク
④	オンラインヒアリング	8月1日（火） ～8月4日（金）	・現地調査に向けて、仮説検証等に必要なヒアリングを行う ※ヒアリング先のご都合に応じ実施時間は流動的となるため、 左記の日程はスケジュールを空けておくようになしてください。
⑤	市長ヒアリング @オンライン	8月4日（金） 10:00～11:00	・オンラインにて市長へのヒアリングを実施
⑥	フィールドワーク @長浜市	8月11日（金） ～8月14日（月） 【3泊4日】	・市内及び田根地区の関連施設などを訪問 ・テーマに関するキーパーソンやチームの仮説に基づく方々へのヒアリングを実施 ※他大学生も田根地区で活動中につき交流を予定
⑦	対面グループワーク @早稲田	8月23日（水） 10:00～17:00	・中間報告会前に学内の教室でグループワーク可能。 実施時間は参加学生の都合を確認し決定
⑧	中間報告会 @早稲田	8月28日（月） 10:00～12:00	・提案内容の報告 ・自治体担当者（@オンライン）、大学職員が参加予定
⑨	プレ報告会 @早稲田	9月13日（火） 10:00～12:00	・最終報告会に向けた進捗確認／発表練習 ※進捗状況によっては左記日程に追加で実施する場合があります。
⑩	最終報告会準備・ 追加調査期間	中間報告会 ～9月19日（火）	・中間／プレ報告会でのフィードバック等をふまえたブラッシュアップ ・提案の再検証（必要に応じて追加のヒアリングを実施）
⑪	最終報告会 @早稲田	9月20日（水） 14:00～16:00	・市長など自治体関係者や地域住民の方々（@オンライン）に向けて提案を発表（約2時間） ※最終報告会終了後、学生と大学職員との振り返り会（1時間程度）を実施するため、解散時刻は17:00頃となります。

※上記以外の日程は必要に応じて参加学生同士で相談し、自主的に集まる日程やオンラインでの会議等のスケジュールを決め、ワークショップを進めていきます（学生同士の話し合いに大学職員や自治体関係者が参加することもあります）。

実施の流れ

- オリエンテーション：自治体の方から課題（テーマ）やその背景を聞く
↓
 - 事前調査：
個人、チーム単位で地域やテーマについて調査。
課題に対する仮説を設定し、提案の方向性をまとめる。
どのような方にヒアリングしたいのか、どのような質問をしたいのかりスト化
↓
 - 現地調査・ヒアリング：
自治体関係者、地域住民へのヒアリング（対面＋オンライン）
↓
 - 最終提案資料作成：
現地調査やヒアリングなどを踏まえ、仮説を検証し、最終提案資料をまとめる
↓
 - 最終報告会：自治体関係者、地域住民を前にプレゼンテーション
- 学生同士で時間を決め、対面での打合せや Zoom 等で議論を進める

過去のワークショップ参加学生の声

※当地域の参加学生以外のものも含まれます。

ワークショップでの活動を振り返って

- 「学生だけじゃ何も変えられない」から「学生だから変えられる」という経験ができました。（社会科学部 1 年）
- インターネットで得られる情報は一部に過ぎず、生の声を聞いて初めてわかることがたくさんあった。（中略）また、自分のアイデアを言語化する難しさを痛感した。（文化構想学部 2 年）
- 今までにない視点を発見することができたことがもっとも大きな収穫でした。（中略）机上の空論でない地方創生とは何かを学ぶことが出来ました。なかなか大学にいても学べないことであったので貴重な経験となりました。（政治経済学部 3 年）

チームメンバーとの関わりを通して

- 元々考えていた案がヒアリングなどを通じて崩れても、また新たなものを考えようと前向きになれたり、（中略）ひとりではなくチームで提案を構築することの素晴らしさや難しさを体験できたので、今後に活かしていきたいです。（教育学部 2 年）
- 自分の長所や短所を発見することができ、意見を出すことの躊躇いがなくなりました。小さな意見や変わった意見でも言葉にすることで、新たな提案に繋がったこともあったため、発言に自信を持てるようになりました。（スポーツ科学部 2 年）
- あまり自己主張が得意ではなく、自己肯定感も低めだった自分ですが、今回の WS を通して相手の考えを尊重しながらも自分の意見を主張する大切さを学び、自分の得意なこともチームメンバーに教えてもらいました。（人間科学部 3 年）

「地域貢献」「地方創生」に対する考えの変化

- 自分が住む地域をよりよくするために、行政の方々だけでなく、ヒアリングでお伺いした多くの方々がそれぞれ熱い思いをもつて様々なことを考えていらっしゃることがとても印象的でした。今思えば、ワークショップ参加前は「地域貢献」「地方創生」といったキーワードを軽く考えていたと思います。（教育学部 1 年）
- ヒアリングを通して、「地域貢献」「地方創生」はその地域に愛着をもって創生したいと思って進んでいる方々を尊敬し、その方々が感じている魅力に寄り添っていく延長線上にあると強く意識するようになりました。（創造理工学部 1 年）